芭蕉史跡めぐり

江東区芭蕉記念館

芭蕉ゆかりのまちあるき(芭蕉史跡めぐり)

①芭蕉記念館

昭和56年4月開館。真鍋儀十翁の寄贈資料を中心に、芭蕉及び俳文学関係資料を展示公開し、文学活動の場を提供している。庭内には、芭蕉の句に詠まれた草木が植えられ、築山には芭蕉庵を模した芭蕉堂の他句碑や投句箱などが置かれている。

②芭蕉庵史跡展望庭園

平成7年4月開園。隅田川と小名木川に隣接し、四季折々の水辺の風景が楽しめる。園内には芭蕉翁像や芭蕉庵のレリーフを配し、往時を偲ぶこともできる。芭蕉翁像は時間によって向きを変え、夜間はライトアップされる。

③芭蕉稲荷神社

大正6年の高潮の後、「芭蕉遺愛の石の蛙」(伝)が出土し、地元の人々の手で芭蕉稲荷が祀られ、同10年に東京府によって「芭蕉翁古池の跡」に指定される。出土した「石の蛙」は芭蕉記念館に展示されている。

④臨川寺

臨済宗妙心寺派。正徳3年(1713)3月6日、仏頂禅師の開山。仏頂は常陸鹿島根本寺の住職で、寺領の訴訟問題でしばしば江戸の臨川庵に滞在していた。深川転居後間もない芭蕉は仏頂のもとを訪れ、禅を学んだと言われている。のちに芭蕉は、鹿島根本寺を訪ね、「鹿島詣」(鹿島紀行)を記している。

⑤芭蕉俳句の散歩道

仙台堀川沿いに、芭蕉が「おくのほそ道」の道中又は出立前に詠んだ17句の高札が設置されている。矢立初めの句と最後の句にある「行く春」と「行く秋」の対比に見られる如く、「おくのほそ道」は旅から帰って5年の歳月をかけて推敲を重ねた芭蕉畢生の作品であることが分かる。

⑥採茶庵跡

芭蕉の門人杉山杉風の別墅(ﾍﾞｯｼｮ=別荘)。深川の草庵(芭蕉庵)を人に譲り、ここから船で「おくのほそ道」の旅に出立した。実際の場所は海辺橋の北東側にあった。

⑦紀伊国屋文左衛門の墓

略称「紀文」は紀州(現和歌山県)の出身で、江戸に出て材木豪商となる。大老柳沢吉保と結び建設事業などを手がけ、一代で財を成すが柳沢の失脚後貨運傾き、門前仲町　一の鳥居付近にわび住いをし、66才で波乱の生涯を閉じた。芭蕉や英一蝶、宝井其角と同時代に生きた人であった。

⑧宜雲寺

英一蝶は芭蕉と交友のあった元禄期を代表する画家で、その奔放な生き方から幕府の不興をかい、三宅島に流刑されるが、ご赦免後一時この寺に寄宿した。その経緯から「一蝶寺」と称される。「芭蕉と柳図」に芭蕉の肖像が見られる。

⑨深川江戸資料館

江戸時代末期、天保年間(1830～1845)の深川佐賀町の街並みを実物大で再現している。音響と照明で夜明けから日暮れまで、季節の移り変わりを演出し、深川情緒を満喫できる。館内には芭蕉の「古池や」の句碑も置かれている。